

第136回福島県新型コロナウイルス感染症対策本部員会議

- 1 日時 令和4年6月17日（金） 11:00～11:09
- 2 場所 危機管理センター災害対策本部会議室（ペーパーレス会議）
- 3 議事

（1）新型コロナウイルス感染者の状況等について

（保健福祉部長）

4ページ、資料1をお願いします。

【資料1】

6月16日現在の療養者の状況です。

入院者が85人、うち重症者が0人となっています。

6月15日から2日連続で入院者数が100人を下回っております。

入院者数が100人を下回るのは、今年1月8日以来約5ヶ月ぶりとなります。

療養者数は、合計で1,027人となっています。

次に、6ページ、新規陽性者の状況です。

人口10万人当たりの1週間の新規陽性者数は41.62人で、6月5日以降、50人を下回っております。

次に、8ページ、病床使用率の状況です。

病床使用率は11.4%で、6月2日以降、20%を下回っております。

次に、10ページ、人口10万人当たりの療養者数です。

56.02人で、6月2日以降、100人を下回っております。

次に、13ページ、保健所所在市における、人口10万人当たりの1週間の新規陽性者数です。

会津若松市においては50人を上回っておりますが、それ以外の各市においては、50人を下回っております。

次に、14ページ、保健所所在市を除く各市における、人口10万人当たりの直近1週間の新規陽性者数です。

相馬市と喜多方市においては100人を超えておりますが、それ以外の各市においては100人を下回っており、伊達市、二本松市においてはレベル2、本宮市においてはレベル1の水準となっています。

次に、15ページ、モニタリング指標です。

「入院率」(8.3%)、「人口10万人当たりの療養者数」(56.02人)、「人口10万人当たりの1週間の新規陽性者数」(41.62人)が、レベル3、15日現在の数値になりますが、「PCR陽性率」(6.7%)、「感染経路不明者の割合」(60.0%)が、レベル2、「病床の使用率」(11.4%)、「重症者用の病床使用率」(0.0%)が、レベル1となっています。

説明は、以上です。

(2) 新型コロナワクチンの接種状況について

(保健福祉部政策監)

17ページ、資料3をご覧ください。

【資料3】

1 接種実績につきましては、6月15日時点で、3回目接種の回数が、1,247,145回、全人口に対する接種率は67.0%となっております。

また、4回目の接種回数は1,078回となっております。

資料中段の囲みの部分、想定される6月末累計の対象者、約152万6千人に対する3回目の接種率は81.7%となっています。

なお、5歳以上11歳以下の小児の接種率は、1回目が35.7%、2回目が30.1%となっております。

資料下段の「参考」につきましては、首相官邸ホームページの「3回目接種の年齢階級別接種率の実績」の抜粋です。80歳代を除いて、本県は全国を上回っております。

次に、資料にはございませんが、新たなワクチンであるノババックス社ワクチンの接種についてご説明いたします。

ノババックス社ワクチンについて、先週、福島市に接種会場を設置し、ファイザー社やモデルナ社のワクチンにアレルギーのある方を中心に73名の方に接種いただきました。

今後は、接種会場を県内4地域に拡充する予定であり、従来のワクチンにアレルギーがある無しに関係なく、接種を希望する方がより多く接種いただけるよう取り組んでまいります。

最後にお願ひとなります。

資料について、次のページをお開きください。

先日開催された厚生労働省の専門家会議において、「オミクロン株であっても、3回目接種を行うことにより、発症予防の有効性が上昇することを確認した」という長崎大学などの研究チームのデータが示されました。

また、本県の限られたデータの範囲となりますが、1月から4月までの60歳以上の感染者の状況をみますと、3回目のワクチン接種をした方の重症化の割合は、他に比べ低い結果となりました。

データの数値については、ご覧のとおりです

これらのことから、まだ3回目接種を受けていない方につきましては、早めに接種を受けてくださるようお願いいたします。

説明は以上です。

(3) その他

(仲村准教授)

県内の感染者数は減少傾向にあります。

病床利用率も継続的に低下しており、重症者がほとんど見られなくなったことに関しては、本当に大きな前進と思います。

一つはここまでワクチン接種、あるいは感染対策に各人が協力してきた成果だと思えます。

今後は少しずつ感染対策の緩和が進むと思いますが、その中でも必要な感染対策を実行することが重要になります。

各人の行動が活発になっていく中でも、これまで頑張ってきた感染対策の基本的なこと、例えば体調変化に気をつけて日常生活を送る、あるいは近距離での（人との）接触ではマスクを着ける、（体調に）何か変化があれば検査を受けるといったことを、今後も頑張っていきたいと思えます。

(知事)

はじめに、感染症対策や医療の現場で献身的に御尽力いただいている医療関係者の皆さんに、心から感謝を申し上げます。

そして、県民の皆さん、事業者の皆さんにおいては、日々のあらゆる場面において、感染拡大防止に御協力を頂いており、厚く御礼を申し上げます。

全国の1日当たりの新規陽性者数は、約5か月ぶりに8千人を割り込む日も見られるなど、引き続き、減少傾向にあり、療養者数や重症者数も減少しています。

福島県においても、今月初め頃から、新規陽性者数が100人前後で推移しており、病床使用率や10万人当たりの療養者数などの各種指標も改善してきています。

人口10万人当たりの1週間の新規陽性者数は、過去最多となる731人の新規陽性者が確認された4月13日頃には、全国でも中位にありました。その後、大型連休明けに一時再拡大したものの、「子どもの感染拡大防止重点対策」などにより減少に転じ、6月に入ってから、全国でも40番台と、他の都道府県と比較して低い水準となっています。

現在、感染状況は落ち着きを見せておりますが、県内も含め全国的に新規感染者数の減少傾向が緩やかになってきており、また、夏頃には再び感染者数が増加するのではないかと懸念も示されています。

県民の皆さん、事業者の皆さんにおいては、感染の再拡大を防ぐため、気を緩めることなく、引き続き、様々な場面に応じた正しいマスクの着用や、人と人との距離の確保など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

県としても、感染症対策と社会活動・経済活動の両立を図るため、力を尽くしてまいりますので、御理解と御協力を今後ともよろしくをお願いいたします。